

「事業名：飯館村環境放射線研修会」 2019年度補助事業の実績・成果

大阪大学 連携市町村：相馬郡飯館村

連携市町村との協定締結日：平成29年8月8日 現地拠点：相馬郡飯館村草野小学校(2階音楽室)

事業のポイント

教育

1. 環境放射線に関する偏りの無い幅広い科学的な知識を与える。
2. 環境放射線を体感し、その実態を定量的に正しく理解する。
3. 飯館村民を始めとする様々な人たちと交流し多様な意見を聞き、議論をする機会を与える。
4. 学生一人一人が自らの頭で考え判断し、行動していく力を与える。

研究

1. 飯館村山林の土壌及び木の葉に含まれる放射性物質の定量と経年変化の観測と放射性物質の循環の研究。
2. 飯館村の農地や牧草地の継続的な調査の実施。

今年度の活動実績

放射線に関連する基礎的な講義を7月に大阪大学で開催した。放射線の物理的側面から始め、身の回りの放射線、生物影響、社会における放射線などについての講義を実施した。その後9月1日から9月5日にかけて大阪大学の学生を中心に尚絅学院大学、岐阜大学、高知工科大学、和歌山大学、神戸大学、東京学芸大学の学生計35名で飯館村において研修会を行った。研究課題の一部である木の葉や土壌のサンプル収集を行い放射線測定手法などについて学び、放射線に対する感覚を養ったのちに福島第一原子力発電所や帰宅困難区域の視察を行った。さらには村民の方達や村長との交流する機会を頂き事故当時やその後の様々な話を聞く事ができた。それらの経験を基に学生ら自身が復興に対して何ができるのかについて毎日議論を行った。

採取した土壌サンプルは研修会参加の学生を含めた形で測定を実施した。

今年度の成果

研修会に参加した学生のほとんどは放射線に関連した知識がほとんど無いところから出発したが、一連の講義と研修により実際に身近なこととして放射線を考えられるようになったと思われる。今後の社会における正しい知識を持ったオピニオンリーダーに育っていくことを期待している。

研究項目についてはようやく数年のデータが集積してきた、本年度のデータ解析は継続中であるが、これまでのデータも含めて経年変化の知見が得られるものと期待される。

